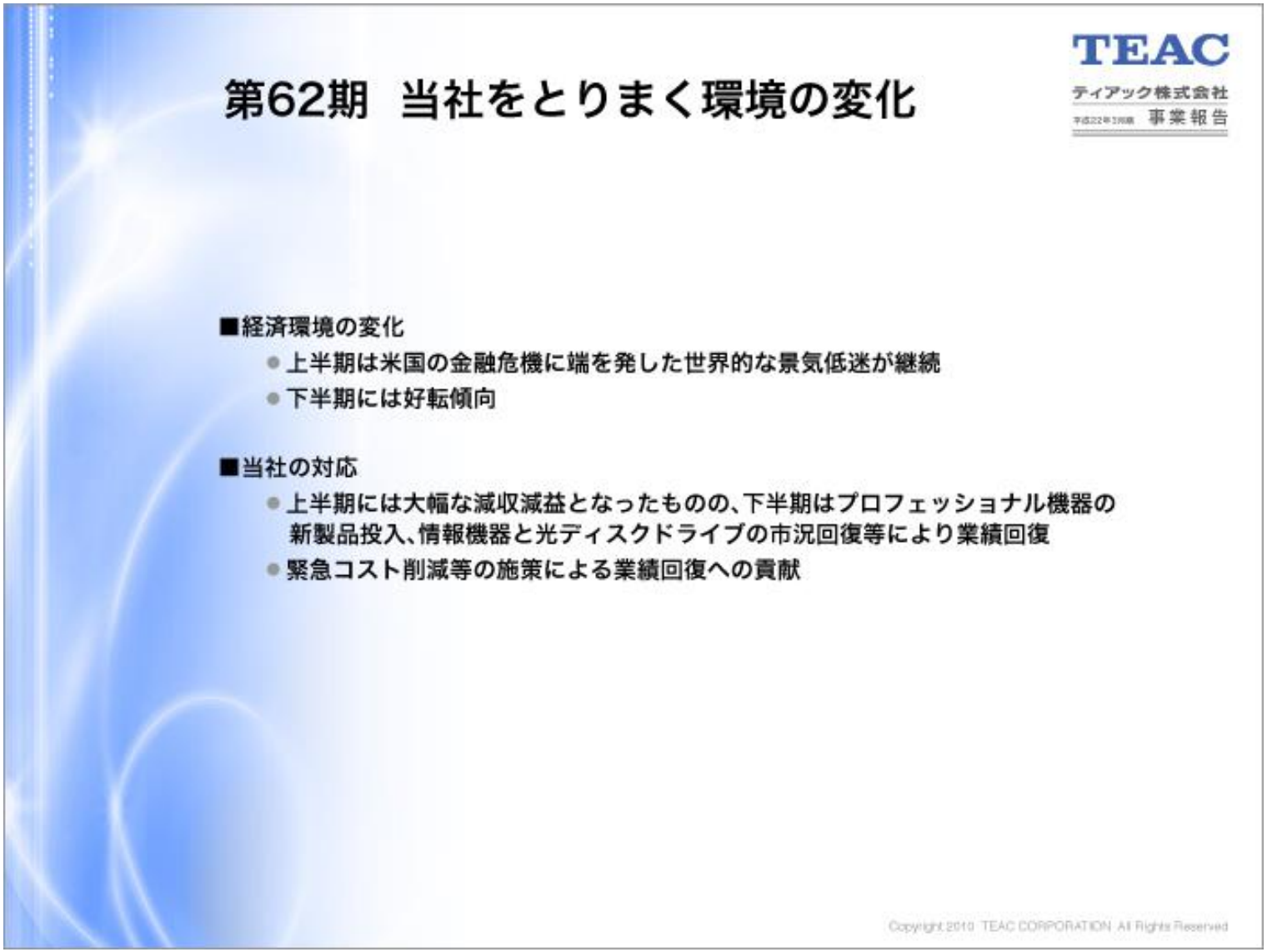
TEAC

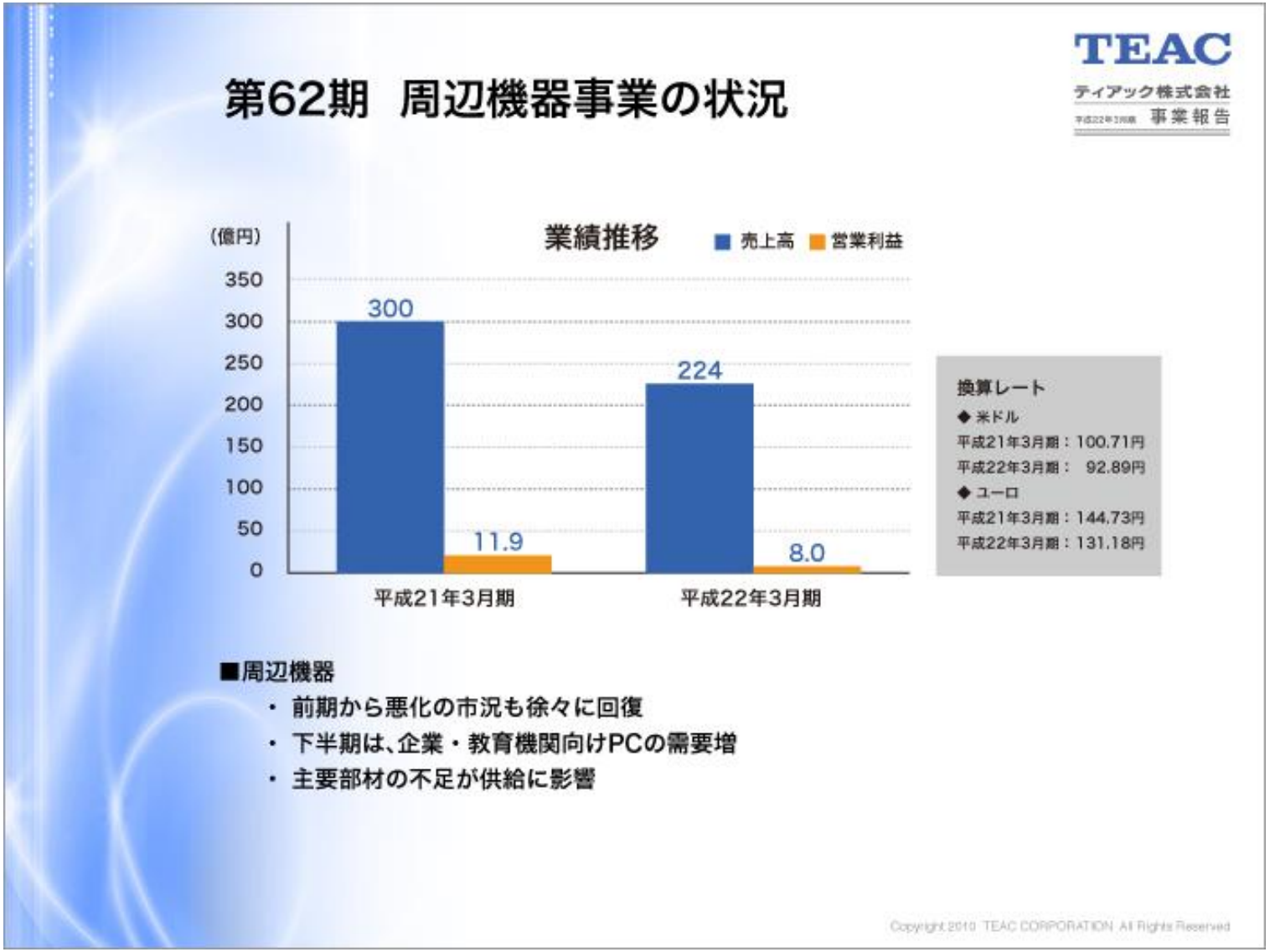
ティアック株式会社

平成22年3月期　事業報告



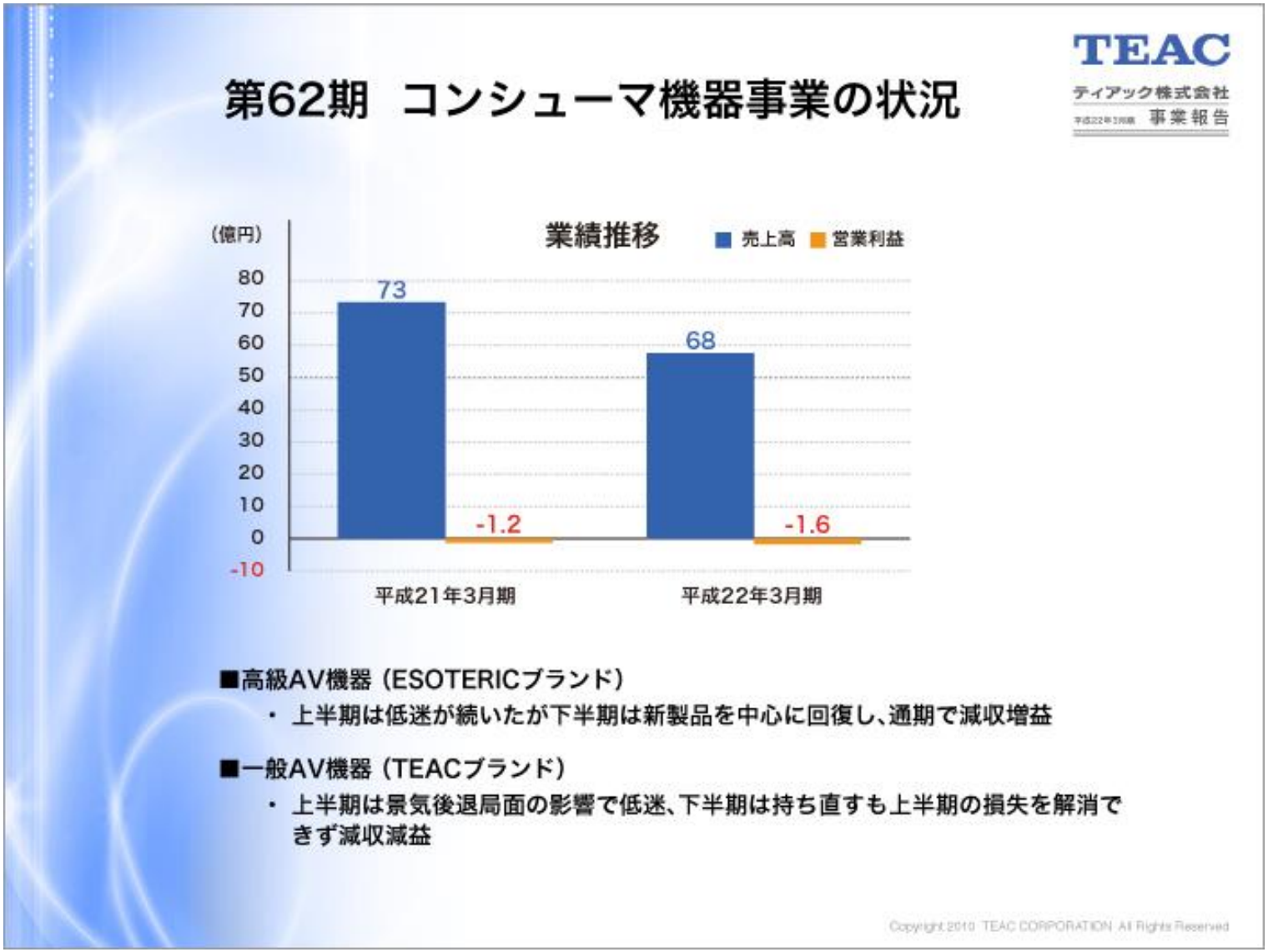
第62期 当社をとりまく環境の変化

当連結会計年度は、米国の金融危機に端を発した世界的な景気低迷の影響を受けておりましたが、失業率は高水準であるものの米国の個人消費も底を打ち、下半期には米国景気も好転の兆しを見せました。わが国経済も同様に、失業率は高水準であるものの、下半期には企業収益は改善傾向となり、設備投資は下げ止まり、個人消費は持ち直しつつあります。
当社は、上半期には前年同期比で大幅な減収減益となり、営業利益以下が赤字となりましたが、第３四半期以降はプロフェッショナル機器事業分野における30機種超の新製品投入により景気悪化の中で売上を確保したこと、設備投資の回復傾向に伴い情報機器事業の売上が回復基調となったこと、光ディスクドライブの市況回復に伴い周辺機器事業の売上が回復基調となったことに加え、緊急コスト削減に取り組んだことにより業績は回復し、通期では営業利益、経常利益、当期純利益で黒字を確保しました。
その結果、当連結会計年度の連結売上高は40,739百万円（前期比20.4%減）となり、営業利益は、554百万円（前期比56.1%減）となりました。経常利益は、当連結会計年度は為替差損の発生が小さかったものの、営業利益が前期に比較して減少したことにより31百万円（前期比76.6%減）となりました。当期純利益は、国内および海外生産子会社において生産の減少に伴う構造改革費用を計上したことによる特別損失の発生があったものの、下半期の業績の回復が順調であり、また４期連続の当期黒字確保と次期以降の業績回復の環境が整ったことにより、次期の計画に基づき繰延税金資産の計上を行ったことも影響し、当期純利益は64百万円（前期比50.4%減）となりました。



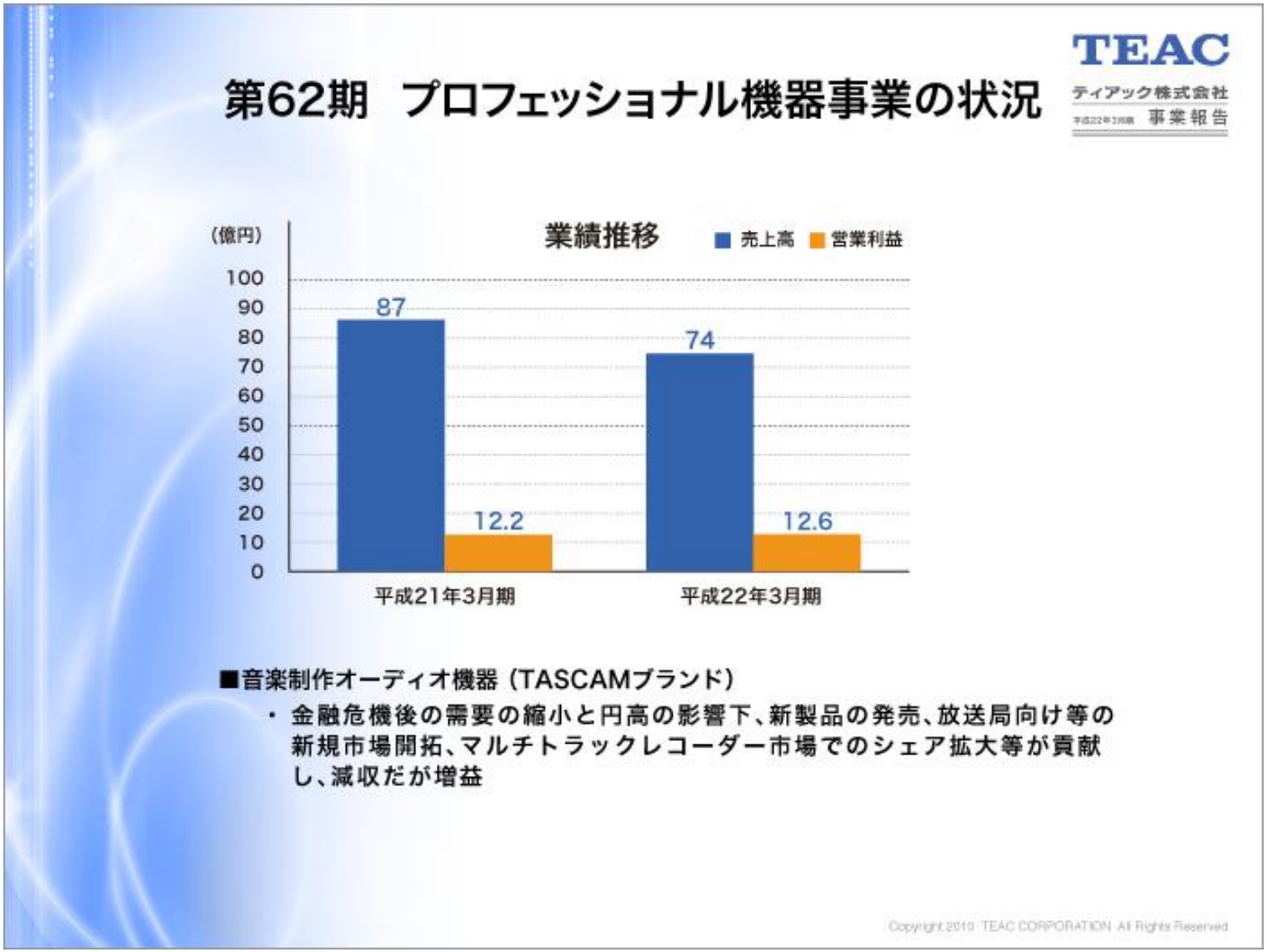
第62期 周辺機器事業の状況

周辺機器事業の売上高は22,454百万円（前期比25.3%減)、営業利益は806百万円（前期比32.7%減）となりました。前連結会計年度下半期から続いた世界的な景気後退の影響による市況の悪化も、当連結会計年度は徐々に回復とはなりましたが、光ディスク事業の主力であるDVD-ROMとDVD-R/RW/RAMドライブにおいて主要部材の不足のため、市場需要に対し充分な販売が出来ませんでした。下半期は、企業・教育機関向けPCの需要が上半期から比べ大幅に伸びたことにより、売上高・営業利益ともに改善はしましたが、通期では減収減益となりました。



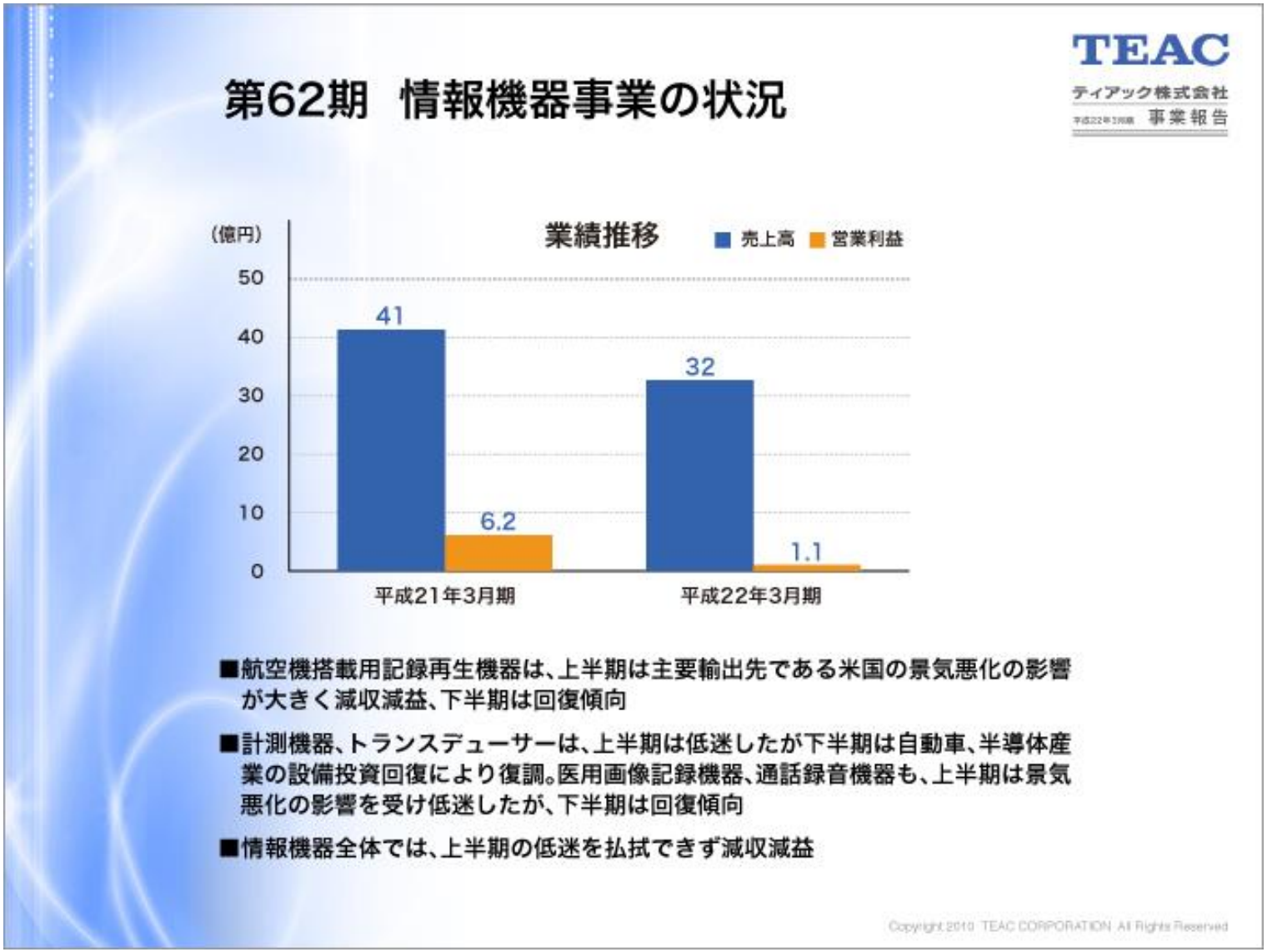
第62期 コンシューマ機器事業の状況

コンシューマ機器事業の売上高は6,849百万円（前期比6.4%減)となり、営業損失は162百万円（前期営業損失129百万円）となりました。一般AV機器分野（TEACブランド）は、上半期の景気後退局面の影響による営業損失をすべて解消するには至りませんでしたが、第３四半期以降回復基調に転換しました。当連結会計年度に実施した欧州販売体制の効率化、日本国内販売体制強化、TEACブランド商品開発の強化等は次期以降さらに効果が出るものと思われます。高級AV機器分野（ESOTERICブランド）は、上半期は低迷が続きましたが、市場が第３四半期以降は徐々に回復したこと、PCオーディオとの親和性を持たせた新製品(セパレートDACおよび一体型ミュージックセンター)を投入したことと、日本市場において輸入品が堅調に推移した結果、高級AV機器分野では減収増益となりましたが、コンシューマ機器事業全体としては減収減益となりました。



第62期 プロフェッショナル機器事業の状況

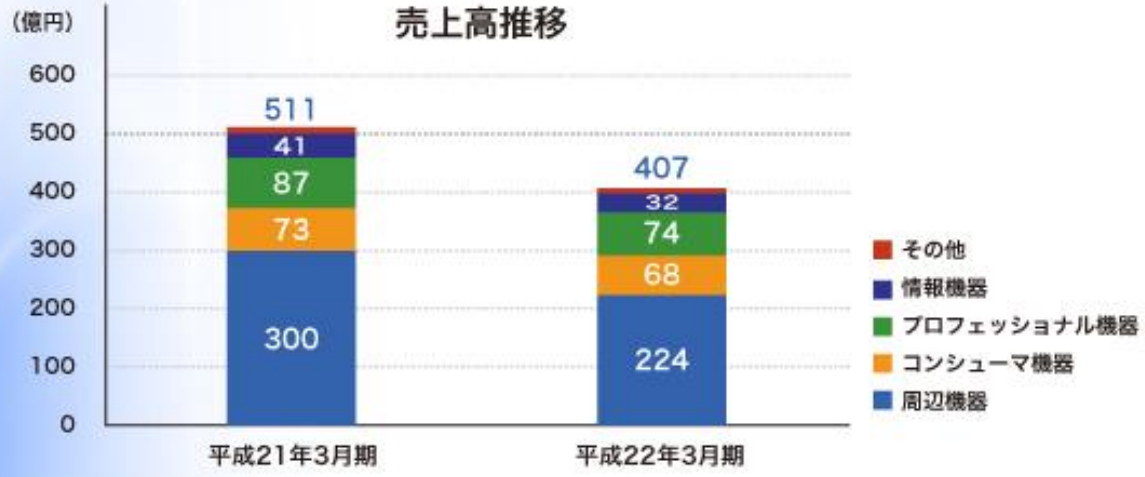
プロフェッショナル機器事業の売上高は7,491百万円（前期比14.7%減）となり、営業利益は1,262百万円（前期比2.7%増）となりました。音楽制作オーディオ機器分野（TASCAMブランド）は、金融危機後の需要の縮小に加え円高の影響もあり、当連結会計年度は厳しいスタートとなりましたが、主力事業として開発投資等を増強、多くの新製品の発売を実現したことに加え、放送局向け製品の投入による新規市場の開拓等が功を奏したこと、また米国におけるマルチトラックレコーダー市場にてシェアを大幅に拡大したこと、またポータブルPCMレコーダーの新製品投入が功を奏し、徐々に売上高、利益とも回復傾向となり、下半期は大幅な増収増益となり、通期でも増益となりました。



第62期 情報機器事業の状況

情報機器事業の売上高は3,231百万円（前期比22.7%減）となり、営業利益は116百万円（前期比81.4%減）となりました。第４四半期は第３四半期以上に回復基調がより顕著となり、航空機搭載用記録再生機器は下半期では若干ながら黒字化を達成することが出来ました。計測機器、トランスデューサー分野では、半導体・自動車業界の回復も顕著となり、下半期は業績回復傾向になりました。通話録音機器については徐々に復調傾向にあり、医用画像記録機器は第４四半期も計画以上に販売が伸張しました。事業部全体では上半期の影響で前期比では減収減益となりましたが、下半期は収益改善傾向が顕著になりました。

第62期　全社の状況



■売上高

- 下半期に回復するも上半期の景気悪化、為替の円高による売上高減少
- 中期事業計画にて売上高の絞込みにより当初から減収の見込

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第62期　全社の状況

TEAC
ティアック株式会社
平成22年3月期　事業報告

■営業利益：　56.1% 減

■経常利益：　76.6% 減

■当期純利益：　50.4% 減

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第62期　全社の状況

TEAC
ティアック株式会社
平成22年3月期　事業報告

■売上高・営業利益

- 平成21年3月期下半期から平成22年3月期上半期に、売上高・営業利益とも大幅落ち込み
- 平成22年3月期下半期に大幅回復

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

対処すべき課題 - 収益構造の転換

**事業リスク低減化により、厳しい環境化でも黒字を確保。
主力のプロフェッショナルオーディオ事業を拡大し、
より安定した収益構造へ転換を進める。**

■コンシューマオーディオ事業

・ 高級AV機器分野(ESOTERIC)と一般AV機器分野(TEAC)の統合による固定費の削減

■プロフェッショナルオーディオ事業

・ 主力部門として売上高の拡大と利益率向上

■インフォメーションシステム事業

・ 製品機種数の削減による主要製品販売への注力

■ストレージデバイス事業

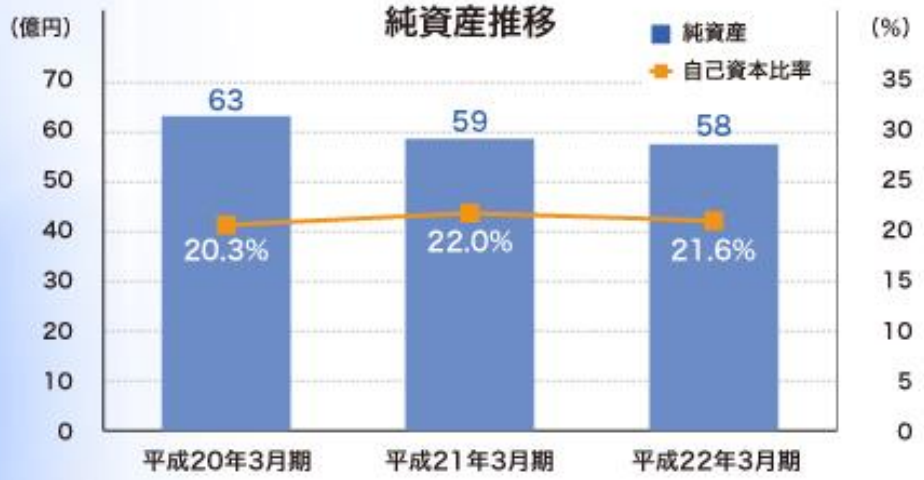
・ コスト構造改善による確実な利益の確保

【補足】 上記は、2010年4月1日付事業部名称　http://www.teac.co.jp/news/news2010/20100330-01.html

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第62期　連結貸借対照表 - 純資産

TEAC
ティアック株式会社
平成22年3月期　事業報告



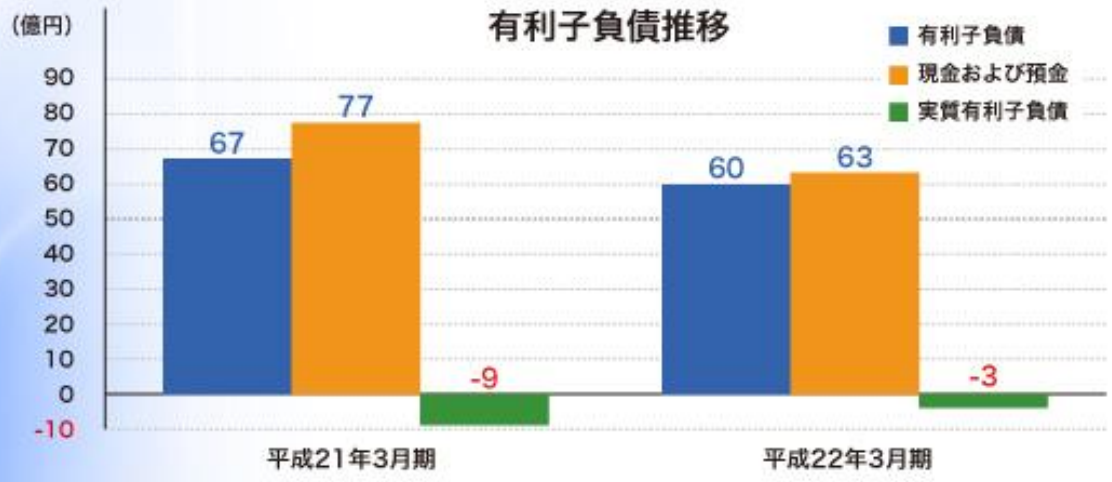
■第62期末の自己資本比率は21.6%

- 当期純利益64百万円を計上したが、円高に伴う海外子会社の純資産の減少等により純資産額は減少。それにより自己資本比率も0.4%減少

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第62期　連結貸借対照表 - 有利子負債

TEAC
ティアック株式会社
平成22年3月期　事業報告



■実質有利子負債はゼロ以下、実質無借金を維持

- たな卸資産の圧縮、仕入債務増等による営業キャッシュ・フローの確保
- 銀行借入の返済による借入金、現金及び預金の減

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第62期 連結損益計算書

■特別損失

特別退職金	166百万円

■法人税等調整額

法人税等調整額(繰延税金資産計上)	▲366百万円

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第62期　連結株主資本等変動計算書

TEAC
ティアック株式会社
平成22年3月期　事業報告

平成22年3月期

（単位：百万円）

	株式資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
前期末残高	6,781	1,008	1,926	△ 104	9,610	△ 8	△ 3,678	△ 3,687	23	5,946
当期変動額										
当期純利益			64		64					64
自己株式の取得				△ 1	△ 1					△ 1
株式資本以外の項目の当期変動額（純額）						72	△ 253	△ 181	△ 23	△ 204
当期変動額合計	－	－	64	△ 1	63	72	△ 253	△ 181	△ 23	△ 140
当期末残高	6,781	1,008	1,991	△ 105	9,674	63	△ 3,932	△ 3,868	－	5,805

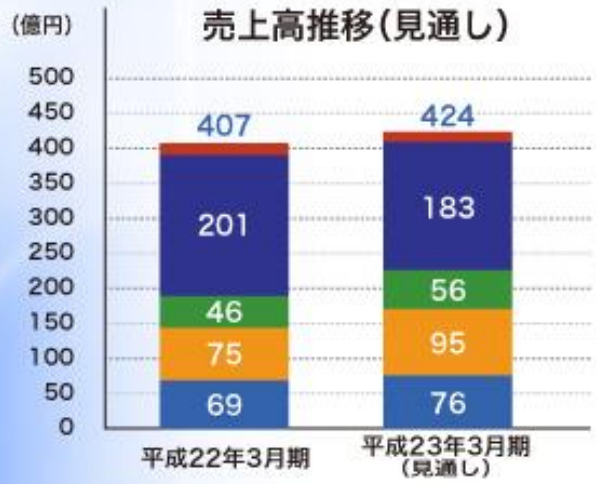
■株主資本は、当期純利益等により63百万円増加

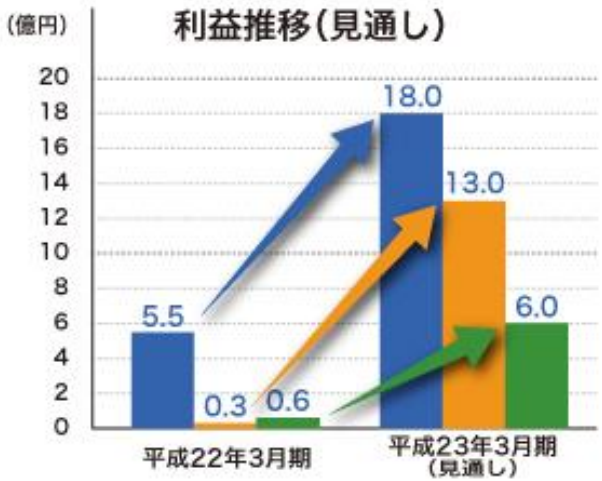
■評価・換算差額等は、円高に伴う海外子会社の純資産の減少等により181百万円減少

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

次期の見通し

TEAC
ティアック株式会社
平成22年3月期 事業報告





- その他
- ストレージデバイス
- インフォメーションシステム
- プロフェッショナルオーディオ
- コンシューマオーディオ

- 営業利益
- 経常利益
- 当期純利益

想定レート：
1米ドル = 90円
1ユーロ =125円

■下半期の業績回復を考慮し、増収増益を見込む

Copyright 2010 TEAC CORPORATION All Rights Reserved